

# 第23回建築BIM環境整備部会 議事録

■日時 2025年(令和7年)12月10日(水)10:00~11:40

■場所 Web会議

■出席者 (敬称略)

【学識経験者】 ◎:部会長

◎志手 一哉	芝浦工業大学 建築学部建築学科	教授
蟹澤 宏剛	芝浦工業大学 建築学部建築学科	教授
清家 剛	東京大学大学院 新領域創成科学研究科	教授 (欠席)
安田 幸一	東京工業大学	名誉教授
小泉 雅生	東京都立大学大学院 都市環境科学研究科	教授

【設計関係団体】

日高 陽子	公益社団法人 日本建築士会連合会 (代理出席)
繁戸 和幸	一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会
岡本 尚俊	公益社団法人 日本建築家協会
伊藤 央	一般社団法人 日本建築構造技術者協会
飯島 健司	一般社団法人 日本設備設計事務所協会連合会
佐々木 真人	一般社団法人 建築設備技術者協会
森谷 靖彦	公益社団法人 日本建築積算協会

【審査者・特定行政庁】

橘 裕子	日本建築行政会議
太田 宏美	日本建築行政会議 (欠席)
香山 幹	一般財団法人 日本建築センター

【施工関係団体】

曾根 巨充	一般社団法人 日本建設業連合会
田伏 雅樹	一般社団法人 全国建設業協会
三村 陽一	一般社団法人 日本電設工業協会
古島 実	一般社団法人 日本空調衛生工事業協会
松下 佳生	一般社団法人 日本建材・住宅設備産業協会 (欠席)

【維持管理・発注者関係団体等】

宮内 尊彰	一般社団法人 住宅生産団体連合会
猪里 孝司	公益社団法人 日本ファシリティマネジメント協会
寺本 英治	BIMライブラリ技術研究組合 (欠席)
田村 元	一般社団法人 不動産協会

服部 裕一 一般社団法人 日本コンストラクション・マネジメント協会

【調査・研究団体】

高橋 暁 国土技術政策総合研究所  
武藤 正樹 審査タスクフォースリーダー/国立研究開発法人 建築研究所  
山下 純一 一般社団法人 buildingSMART Japan  
倉田 成人 一般社団法人 日本建築学会（欠席）

【情報システム・国際標準関係団体】

野田 勝 一般財団法人 日本建設情報総合センター  
春原 浩樹 一般社団法人 建築・住宅国際機構  
木下 一也 一般財団法人 建築行政情報センター

【発表者(委員以外)】

大越 潤 標準化タスクフォース副リーダー/一般社団法人 buildingSMART Japan

【オブザーバー(国土交通省)】

藤本 陽一 国土交通省 大臣官房 技術調査課 課長補佐（欠席）  
末兼 徹也 国土交通省 大臣官房 官庁営繕部 整備課 課長  
上杉 良羽 国土交通省 不動産・建設経済局 不動産業課 係長（代理出席）  
井上 堯 国土交通省 不動産・建設経済局 建設業課 企画専門官（代理出席）  
松野 秀生 国土交通省 住宅局 建築指導課 課長

【事務局】

国土交通省 大臣官房 官庁営繕部 整備課 施設評価・デジタル高度化推進室  
国土交通省 不動産・建設経済局 建設業課  
国土交通省 住宅局 建築指導課

■配布資料

(議事次第)

- 資料0 建築BIM環境整備部会委員名簿
- 資料1 建築BIMの社会実装に向けた取組について
- 資料2-1 審査TFにおける取組の報告
- 資料2-2 ICBA確認申請用CDEについて
- 資料2-3 標準化TFにおける取組の報告
- 資料3-1 ガイドライン改定の検討状況について
- 資料3-2 ガイドライン第2版/第3版 目次構成(素案)の比較

# 1. 開 会

---

## 野口(事務局/国土交通省建築指導課企画専門官)

- 定刻となりましたので、ただいまから「第23回建築BIM環境整備部会」を開催いたします。本日は大変お忙しいところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。司会進行を務める国土交通省住宅局建築指導課の野口です。本日はよろしくお願いいたします。
- 本日は、Web会議にて開催を行います。本日の資料につきましては、国土交通省ホームページにてデータを公開しておりますのでご確認ください。また、画面共有機能により投影もいたしますので、そちらも併せてご確認をお願いいたします。
- 次に、Web会議の注意点についてご説明いたします。委員、オブザーバーのうち、発言者以外はミュートにしてください。委員、オブザーバーのうちで、ご発言をされたい場合、「手を挙げる」機能により手を挙げていただき、進行により指名を受けた後に、マイクのミュート解除およびビデオをオンにしてください、ご発言をお願いいたします。傍聴者の皆さまは、事前に国土交通省ホームページにてご案内いたしましたとおり、傍聴以外の機能は利用できませんのであらかじめご了承ください。
- 続きまして建築指導課長の松野よりご挨拶申し上げます。松野課長、よろしくお願いいたします。

## 松野(国土交通省建築指導課長)

- 皆さま、おはようございます、建築指導課長の松野です。日頃は建築行政にご協力いただきまして、ありがとうございます。
- 今日は、本年度2回目の環境整備部会で、2時間ですが、充実した議論をお願いしたいと思います。
- BIMの建築確認は、来年の春で、残り3カ月と少しですが、4月から図面審査になっており、審査機関で具体的な話も進んでおります。今日はこれから、それぞれのタスクフォースの取組状況をご報告いただくことになっています。これが、実際の実務につながっていくように、今日はしっかり議論できればと思っています。ガイドラインの改定状況の話もあると思います。
- 4月は大きな節目になりますが、その先のデータ審査が実は本丸だと思っており、それに向けて、将来に向けて、制度的な内容もそうですが、組織的な話も含め、どう動かしていくのがいいのかを、皆さん方とさらに突っ込んだ議論をしていきたいと思っています。
- BIMの社会実装化が本格的に進むと、今、最終段階になっていますが、来年度の予算の中にも、そのようなものをしっかり盛り込んで取り組んでいきたいと思っています。皆さん方には引き続きご協力いただきたいと思います。
- では、今日は活発な議論をよろしくお願いいたします。

## 野口(事務局/国土交通省建築指導課企画専門官)

- 松野課長、ありがとうございました。それでは、議事次第の2より先の議事については、志手部会長に進行をお願いしたいと思います。志手部会長、どうぞよろしくお願いいたします。

## 2. 議 事

---

### 志手部会長(芝浦工業大学教授)

- 部会長の志手です。本日はお忙しいところをお集まりいただき、ありがとうございます。
- 本日の議題ですが、図面審査があり、属性の標準があり、ガイドラインの改定があり、非常に重要な内容となっていますので、活発なご議論をよろしくお願いします。
- それでは議事次第の(1)「建築BIMの社会実装に向けた取組について」をお願いします。資料は1です。

### (1)建築BIMの社会実装に向けた取組について

「資料1 建築BIMの社会実装に向けた取組について」

#### 野口(事務局/国土交通省建築指導課企画専門官)

- 事務局よりご説明します。「建築BIMの社会実装に向けた取組について」で、この後、タスクフォースそれぞれのリーダーからご報告いただきますが、それに先立ち、改めて取組の全体像について簡単にご紹介します。
- 2ページをお願いします。建築BIMの将来像と工程表の検討体制についてということで、令和4年に、この建築BIM推進会議の中で「建築BIMの将来像と工程表ロードマップ」を策定していただきました。BIMによる建築確認における環境整備、データ連携環境の整備ということで、データの標準化に関する取組を行い、さらに、維持管理・運用段階のデジタル化に関して、このロードマップに沿って社会実装に向けた取組をこの部会の中で推進しています。特にBIMの建築確認の環境整備、データ連携環境の整備、データの標準化については、タスクフォースを設置して検討を進めていただいています。
- 3ページをお願いします。それぞれのタスクフォースの、これまでの主な取り組みの全体像ということで、まず建築確認の審査タスクフォースについては、当面、2026年4月のBIM図面審査の開始に向けて準備を進めていただいております、今年度は、開始に向けた最終的な準備を進めていただいている段階です。
- それから標準化タスクフォースについては、BIMの属性情報の標準化を図ることを、まず第1の目標として、その成果物である標準属性項目リストは、昨年度整理して、ご披露いただきました。今年度は、この標準属性項目リストを用いたユースケースごとの取組の標準化について、検討を進めていただいております。
- 4ページをお願いします。今回は、10月29日に当環境整備部会を開催させていただきました。まだ1カ月と少ししかたっていないということで、それぞれ、審査タスクフォース、標準化タスクフォースの進捗については、進んでいるものと進んでいないものがあります。前回のタスクフォースの中で、審査タスクフォースにおいては、BIM図面審査の試行・検証の状況、BIM図面審査を実施するためのツールの検討状況、審査マニュアルについての状況、ICBA、BIM図面審査を実施するための環境としての確認申請用CDEの開発状況等について、ご報告しました。
- 今回については、BIM図面審査の試行・検証を2段階に分けて進めています。その2段階目の検討状況をご報告するとともに、ツール類についても、来年1月の最終化に向けた具体的な検討状況につい

てご報告します。加えて、このCDEの運用を担う建築行政情報センターより、このCDEの準備に向けた具体的な状況についてもご報告いただく予定です。

- それからデータ標準化については、前回からの検討の進捗状況について、最終の状況をご報告いただくことになっています。
- 5ページをお願いします。前回もご紹介しましたが、BIM図面審査開始までのスケジュールということで、4月に向けて、このような形で、準備を進めています。
- 6ページ以降でご説明しますが、開始に向けて、実際に準備を進めていく段階ということで、制度の説明会なども順次実施して、準備を進めています。
- 6ページをお願いします。大きく4つ、5つあり、制度の説明会ということで7月にも実施しましたが、BIM図面審査全体に関する制度の説明会ということで、7ページは後でご紹介しますが、改めて最新の検討状況に基づいて、東京と大阪で、オンラインも併用で制度説明会を実施する予定です。
- それから、審査者向けの、審査に慣れていただくための講習会も、来年度予定しています。
- また、BIM図面審査を実施するためのシステム関係であるCDEに関する導入の説明会。それから、CDEを使ったBIM図面審査の操作に慣れていただくための講習会も、ICBA様の方でご協力いただいています。
- それから、設計者向けの講習動画も関係団体にご協力いただき、準備を進めていただいている状況です。
- 7ページをお願いします。直近の制度説明会については、今、申し込みを受け付けている状況です。東京と大阪会場で、オンラインも併用です。オンラインについては、1,000人を超える多数の応募を頂いていますが、現地の説明会の現時点での参加申し込み人数が少し寂しい状況になっていますので、ぜひ皆さまに、広く、現地の説明会にもご参加を、ご検討いただければと思います。
- 私からの、導入の説明については以上です。

### 志手部会長(芝浦工業大学教授)

- ご説明をありがとうございました。制度説明会は、現地に足を運んでいただければと思います。

## (2) 各タスクフォース(以下、TF)における取組の報告について

### ① 審査TFにおける取組の報告

資料2-1「審査TFにおける取組の報告」

### 志手部会長(芝浦工業大学教授)

- 続いて議事次第(2)「各タスクフォースにおける取組の報告について」に移りたいと思います。まずは、審査タスクフォースのリーダーの武藤様、ご報告をお願いします。資料は2-1です。

## 武藤委員(審査TFリーダー/国立研究開発法人 建築研究所)

- それでは、審査タスクフォースから、取組の報告をさせていただきます。今回は、冒頭で説明がありましたように、審査タスクフォースリーダーからの説明と、それから確認申請用CDE基盤を運用されるICBAさんからの説明がありますので、よろしくお願いします。
- 1ページをお願いします。BIM図面審査の実施に向けた環境整備の取組で、ここに書いてある箇条の部分の順に説明をさせていただきます。
- 2ページをお願いします。成果(案)です。これは、毎回お見せしている資料ですが、今回は新しく入出力基準解説書を作ることになりました。これは、前回の作業部会でお話した1回目のロールプレーの結果を踏まえ、入出力基準の各条文に対しての解説が必要ではないかということに答えるものです。
- 3ページをお願いします。マニュアルガイドラインの工程表です。現在は12月10日で、ちょうど薄い赤い線が引いてあるところですが、前回からの進捗については、11月の中旬ごろに事前公表版を国交省のポータルに公開しています。ガイドラインと、その付録である入出力基準。それから、適合に係る申告書と表現標準はセットになっているものですが、表現標準については、事前公表版をまだ示しておらず、現在準備をしている段階ですが、おおむね工程表のとおり進捗しています。
- 4ページをお願いします。こちらはICBA確認申請用CDE関係で、後ほど説明がありますが、工程表の説明としては、おおむね順調に開発等が進んでいる状況です。
- 5ページが支援ツール関係です。こちらは、事前公表版が出たことに対して、申告書の様式なども一部変わったところもあり、これまで、ロールプレーの時点までにいろいろ公表していただいているサンプルモデル等について、ガイドラインの変更などに伴い、さらに改良、整備の対応をしていただいている状況です。
- 6ページをお願いします。説明会、普及関係についても、先ほどご案内がりましたが、制度説明会に対してのコンテンツの作成などについては対応しています。それと並行して、ICBA確認申請用CDEの周知・普及については、ICBA様が主体的になって、これまで、5月22日の説明会から、順次、その内容をタイムリーにアップデートしていただきながら、説明会を開催していただいている状況です。
- 7ページをお願いします。BIM図面審査の試行・検証についてです。1回目は、先ほどの事前公表版の体系につながっていましたが、2回目の検証としては、ICBA、BIM図面審査用CDE、確認申請用CDEが構築されますので、そちらのフィールドテストを兼ねて、いわゆる通しで、申請の手続きから確認済証の交付まで、いわゆる通しでなぞるということを行っています。
- それから、この目的1、2、3の部分は試行の1回目と同様ですが、入出力基準に従って整合性確認省略項目の範囲に特定ができるか、その部分が整合しているか。審査者側においては、そのように提出されたものについて、申告書の内容が整合性確認の省略箇所を特定できるかというものも、併せて行っています。
- 8ページをお願いします。ガイドライン(別添含む)(初版)公開に向けてということですが、先ほど申し上げた試行・検証の2回目を踏まえた加筆・修正をしたいと考えています。当初のもくろみとしては、事前公表版がおおむね概成しているという認識ですので、初版に向けた修正という部分については、極力少ない修正になるのではないかと思います。特に図面の表現標準については、まだ事前公表版が出ていないこともありますので、その辺りを踏まえて内容が盛り込まれると認識しています。

- 9ページをお願いします。ガイドラインの初版公開に向けた修正の案ですが、検証を通じて明らかになった課題という部分について見直しを行いました。特に入出力の操作について、位置と形状が一元化できるのではないかなど、細かく書いていた部分について、入力する視点に立って、まとめられるものをまとめます。それから寸法のようなもの、このbポツですが、全体に共通するものについては新たに基準を設けます。総合的なものとして一本化するなどといった構成の調整が主な修正箇所になっています。
- 10ページをお願いします。その入出力基準に対して、どの辺りが変更なのかについて、赤字で書かれている内容の部分に修正が入る予定です。
- 11ページをお願いします。今、お示したものは一般建築の入出力基準でしたが、対応の2として、木造建物の入出力基準についても、初版の公表と同じタイミングで、年内あるいは年始を目途に素案を公開することとしています。
- こちらに書いてある内容ですが、主に、いわゆる旧4号、戸建て住宅の適応を見据えた内容として、構造の基準ですね。入出力基準のうち、軸組工法と枠組壁工法の入出力基準について、おおむね整理ができています。こちらは、関係各所のヒアリングを踏まえて公開したいと思っており、初版については、BIM図面審査の実施の段階で公表できるようにしたいと考えています。
- 12ページをお願いします。こちらが、入出力基準に基づいたサンプル図面、サンプルモデルの生成の状況で、スリーショットあります。右側に三様のスクリーンショットがありますが、こちらは、IFCでソフトウェアから出力されたものについて、確認申請用のCDEのIFCビューワーでモデルを見ているものと、それから、図面の出来栄です。
- これらのソフトウェアは、BIMのソフトウェアだけでなく、木造設計に特化したソフトウェアからもICF出力ができるといったところについての検証を現在行っている状況です。
- 13ページをお願いします。それから、申請・審査マニュアルの公表についてです。こちらも、入出力基準の修正や、申告書のフォーマットの変更等を反映したのものとして、初版の公表を行っています。下に書いてあるものは、事前公表版として出ているものですが、これらに加え、例えば審査環境や、構造適判、省エネ適判等、今回のフィールドテストで初めて行うようなことに対してのフィードバックを、初版の公開に向けて修正をしていくこととしています。
- 14ページをお願いします。入出力基準の解説書については、1回目のロールプレーの意見を踏まえて新たに作るもので、初版公表版の段階でリリースしたいところです。
- 構成の特徴としては、ここの例を挙げますと、意匠-003という通り芯の入出力基準について、まず、それがどういう意図として作られているのかを示した上で、基準本文、実際の入力に関する所作などについて解説を加えます。図解での理解を深めるとともに、なぜやっていけないことがあるのかということ。それから、良い例、悪い例。特に2DのCADを使われている方の作法のようなものと比べて、BIMの入力は何が違うのかも踏まえて解説することを考えています。
- これは1つの基準についてですが、先ほどお示した一般建築の入出力基準に対して、逐条でこのようなものが整理されます。
- 15ページをお願いします。ICBA確認申請用CDEマニュアルの素案について、1,000ページというのはシステム全体の手順書ですが、これを字引として、それぞれ使用の目的によって、この基本となる手

順書を再編集して、それぞれの立場の方が間違いなく確認申請用CDEの機能の操作ができるようになるようなマニュアルを整備します。

- 16ページをお願いします。ツール類の開発の内容です。サンプルモデル・テンプレートの改良についてですが、前回からの進捗としては、鉄筋コンクリート造3,000㎡庁舎モデルが追加されています。その反映が、このサンプルモデルです。事務所モデル、庁舎モデルを含めてですが、先月20日時点で1万件を超えるダウンロードがあり、注目していただいていることが報告されています。
- 17ページをお願いします。設計者向けのBIM図面審査説明資料も、新たに作成していただきました。これは、特にBIMの初学者、初めて操作する方をターゲットとして、BIM図面審査の講習動画を作成していただいたものです。公表のポータルは、現在、BLCJのホームページで公開されています。特にBIM図面審査に関心を持っていただくことを主眼に作成していただいております、必ずしも全ての設計をBIMで行わずとも、BIM図面審査に対応できるという、ある種のヒントを授けるような内容です。
- 18ページをお願いします。続いては、BIMデータ審査の実施に向けた環境整備の取組で、今回の環境整備部会は、事前審査の進捗という部分についてご説明しています。
- 19ページをお願いします。工程表の確認で、資料はここで終わりですが、現時点で、これらの検討を並行して行っており、成果がまとまりつつあります。今回、そのBIMデータ審査については、審査タスクフォースの目標としては、これから来る3か年において、BIMデータ審査を概成するところに向けた工程表を作ることを、1つの大きなアウトプットとしてお約束しています。
- そのような意味で言いますと、これまでの検討は、BIMデータ審査についての1つのビッグピクチャーを描くイメージで、BIM図面審査のあるべき形を踏まえて検討しており、それぞれに必要な要素の技術について深掘りをしています。それらを踏まえて、では、実際のその環境に対して、そのようなものをどう実装していくのでしょうか。3年でやれることの限度も踏まえつつ、これから、工程表を仕立てていく段階に入っていきます。
- 次をお願いします。これで終わりですか。資料の2-1については、これで終わりです。審査タスクフォースからの説明は以上です。ありがとうございました。

### 志手部会長(芝浦工業大学教授)

- ご説明をありがとうございました。それでは、ただ今の資料2-1について、ご質問・ご意見等がありましたら、よろしく申し上げます。いかがでしょうか。
- 小泉委員、よろしく申し上げます。

### 小泉委員(東京都立大学大学院教授)

- ご説明をありがとうございました。非常に素朴な質問ですが、14ページで、入出力基準解説書のページがありますが、そこで禁止事項が書かれていて、これはもっともかと思いますが、仮に、これに抵触したものが確認申請に出された場合に、どのようなことになるのでしょうか。

### **武藤委員(審査TFリーダー/国立研究開発法人 建築研究所)**

- 申告書の内容については、整合性を確認してから申請するという事になっていますので、違っているかどうかを見抜けないといけないと思いますが、まず、このような操作をしたことについては、別に、それを絶対にしてはいけないということではなく、申告書に丸を付けていただければいいと思います。
- 先ほど言いましたように、申告していただいたものについては、単純に、その入出力基準に従ってやったということのみならず、提出時点で、設計者の方には、相互の整合性についてもきちんと確認して申請していただくことになりますので、気付けばそれでよいわけですし、もし何か相違があれば、それはまた立ち戻って申請するという事。要するに、申請する方の利益にはならないと思っています。

### **小泉委員(東京都立大学大学院教授)**

- 多分、悪意を持ってというのは論外として、ついうっかりで、手入力で記入・修正したものが残ってしまいました。あるいは、それによって齟齬が生じたことが、どこかの時点で明らかになったところで、その部分を修正すればいいのか、データが連動するので、もう一回出し直しになるのですか。

### **武藤委員(審査TFリーダー/国立研究開発法人 建築研究所)**

- これについては、一部、そこだけ直したことで整合することでもありませんので、出し直しだと思います。例えば、それはBIM図面審査において整合しているの、整合性確認省略をするものではないものとしてみることはあるかもしれませんが、それは、場面において判断されると思います。

### **小泉委員(東京都立大学大学院教授)**

- そうすると、「不適切な形で作られていた場合には出し直しになります」ということも、周知をしておいたほうがいいかもしれませんね。

### **武藤委員(審査TFリーダー/国立研究開発法人 建築研究所)**

- そのとおりでしょう。これは、審査タスクフォースの私から言うのかどうかということはあると思いますが、その辺りは、また考えなければいけないかもしれません。

### **小泉委員(東京都立大学大学院教授)**

- そうですね。分かりました。その辺も、申請する側からすると、結構大切な情報かと思いました。私からは以上です。

### **志手部会長(芝浦工業大学教授)**

- ありがとうございます。その他にご意見・ご質問等はありませんか。よろしいですか。
- それではありがとうございます。次の議題に移りたいと思います。

## ② ICBA確認申請用CDEについて

資料2-2 「ICBA確認申請用CDEについて」

### 志手部会長(芝浦工業大学教授)

- 続いて、ICBAの木下委員より報告をお願いします。資料は2-2です。

### 木下委員(一般財団法人建築行政情報センター 専務理事)

- 建築行政情報センター、ICBAの木下です。本日は、私どもからの報告の時間を頂戴しまして大変ありがとうございます。
- ICBAにおいては、国交省から、この確認申請用CDEの提供を進めてほしいということで、昨年夏以降、どのような形でこのシステム提供を進めたらいいのか検討を進めてきました。その立場からのご報告とご理解下さい。
- 2ページをお願いします。私どもは、今年の5月、8月、11月に、申請者・審査者向けに図面審査も含めた説明会を開催し、いずれも1,000名を超える申し込みを頂いています。また10月には、消防向けの説明会なども行ってきました。申請者に向けても、PRをやっていくことが大切ということで、建築士会と一緒に全国で説明会を開催し、業界紙やBIMのベンダーの皆さまと一緒に、申請者に対してPRを行って来ました。
- 最近の動きですが、この11月に利用料を公表し、その後、BIM図面審査に関するウェブポータルを公開しました。また、サービス名として、「ArchSync」(アークシンク)と決定しました。
- 今後ですが、確認申請用CDEのシステムそのものは、かなり自由度が高いこともありますので、BIM図面審査のガイドラインとシステムの操作マニュアルをつなぐ業務手順書を作成中です。それをもってBIM図面審査を行う際の、具体的な操作方法の例について、年明けの2月ぐらいから、トレーニングという形で進めていきます。
- また、来年の4月にBIM図面審査を開始すると表明していただいた機関が、資料右下の、日本ERI様、ビューローベリタスジャパン様、日本建築センター様、日本建築総合試験所様、グッド・アイズ建築検査機構様、この5機関に表明していただき、本日はここに公開したいと思います。それから、この中の一部の機関におかれては、既に自機関のホームページで公表していただいております。
- 3ページをお願いします。これは11月に公表した料金で、8月に一度、素案として公表しましたが、各機関から、様々なご意見を頂戴して、それを受けて見直しを行いました。見直しのポイントが2点。1点目は、今回の利用料は、かなり従量料金に寄せた形で料金設定をしたものです。もう一つは、この料金表については、今後3年間のBIM図面審査期間における料金体系ということで、今後、データ審査が実現すると、CDEの使い方そのものも変わってくると考えられますので、データ審査の中身の検討状況も踏まえながら、3年後には見直しを行いたいということも表明しています。
- 4ページをお願いします。ここからは審査機関さまへのお願いです。今、われわれは、来年の4月にBIM図面審査を開始したいという方を中心として、具体的なご契約に向けた相談、あるいは見積もりのご依頼を受けています。ご内諾を頂ければ、先ほど申し上げたシステムの使いこなしに関するトレーニングを通じて、早期のBIM図面審査の実現に向けた体制整備を行っていただき、4月以降随時図面

審査を開始していただくということでございますので、審査機関におかれましては、ぜひとも私どもにご相談いただければと思っています。私からのご報告は以上です。

### 志手部会長(芝浦工業大学教授)

- ありがとうございました。それでは、ただ今の資料2-2の説明について、ご質問・ご意見等はありませんか。審査タスクフォース全体に関してでもよろしいかと思いますが、ご質問等はありませんか。
- 粛々と準備を進めていただいています。それでは、次の議題に移りたいと思います。

### ③ 標準化TFにおける取組の報告

資料2-3 「標準化TFにおける取組の報告」

### 志手部会長(芝浦工業大学教授)

- 続いて、標準化タスクフォースの報告に移りたいと思います。本日は、リーダーの三戸様が欠席ということで、代理で大越様より報告をお願いします。資料は2-3です。

### 大越 標準化TF副リーダー(一般社団法人 buildingSMART Japan)

- 標準化タスクフォースから、大越が発表します。
- 1ページをお願いします。標準化タスクフォースは、昨年度、標準属性項目リストを公開しましたが、この属性情報の標準化と、それに伴うユースケースの検討、および外部データとの連携を軸に活動を進めてきました。今年度については、標準属性項目リストをさらに有効に活用すべく、ユースケースの検証および社会実装に向けて、データベースの在り方を検討する予定です。
- 2ページをお願いします。本日は、こちらの内容をもってご説明します。
- 3ページをお願いします。4ページをお願いします。こちらは資料の再掲になりますが、全体の複数年度にわたる検討ということでお示したものです。昨年度は標準属性項目リストの公開をしており、順次ブラッシュアップする形を予定しています。
- 5ページをお願いします。今年度は、こちらにお示しするようなスコープに基づいて活動を進めてきています。一例としては、サンプルモデルをベースに、検証結果を標準属性項目リストに対してフィードバックし、不足している属性については追加する検討を行っています。
- 外部データについては、標準属性項目リストを補完するような形としても考えていますので、連携データとして、実際に有効活用できる状況を目指して、現在、活動を進めています。
- 6ページをお願いします。本年度は、先ほど野口企画専門官からご紹介いただきましたように、標準属性項目リストの改訂等を含めて具体の活動を進めていますので、本日は、この改訂方針、データベースの活用について、それからユースケースの検討についてご説明しようと考えています。
- ユースケースについては、深掘り、拡張ということで、昨年度実施していたS2の積算ユースケースから、S4段階での積算ユースケースの検証を行うことで、データ連携についての検討を、より進めていきます。将来的な、例えばMETを作成するのに当たって、どのようなことが考えられるかについても検討していきたいと考えています。

- 7ページをお願いします。本年度のアウトプットですが、属性項目リストの改訂、データベースの要件書があります。属性項目リストについては、今年度の活動に基づいて、現在、改訂作業を進めている状況です。データベースについては、属性項目リストの今後の利用を踏まえた上で、データベースが必要であろうと考えていますので、それに基づいた要件書を作成することを考えています。
- それから各ユースケースの検討です。先ほどご説明したとおり、深掘り、拡張を行っていく形になっていきますので、その検討書を作成することを考えています。
- 外部データについては、連携手法の検討を行っていることと、実際のユースケースの検討を昨年から引き続き行っており、こちらは、ユースケースの検討書に盛り込む形で考えています。
- 8ページをお願いします。こちらは、当初の活動計画です。
- 9ページをお願いします。活動が、若干後ろ倒しになっていますが、最終的な報告書作成に向けて、現在ピッチを上げて進めている状況ですので、当初の計画どおりに報告書の作成や実際の活動まで含めて完了することを想定して、動いている状況です。
- 10ページをお願いします。今年度の実施体制です。属性項目リストの改訂とデータベース化の検討。こちらは、昨年度の属性項目リストに対するものになっていますが、加えて、ユースケースの検討と、外部データの連携手法の検討が動いています。
- 11ページをお願いします。属性情報の標準化の進捗について、ご報告します。
- 12ページをお願いします。前回ご説明しましたが、この属性情報の標準化においては、幾つかの基本的な課題があります。例えば昨年度については、ロングリストとして公開していますが、公開された属性項目リストだけでは使いづらいというご意見もありました。どのような使い方をしているかわからないという意見もありますので、標準属性項目リストの使い方を詳しく追記するような形で補足をしていきます。
- 当然ながら、ユースケースの検討により、どのような形でフィルターセットを使っていくかがお示しできるのではないかと考えていますので、ユースケースの検証によってお示ししたいと考えています。
- 昨年度は、属性項目リストについて公開した後にアンケート等を行っていますので、お寄せいただいた回答から、改訂する内容を随時盛り込んだ形で、属性項目リストのバージョン2.0も作成している状況です。
- 13ページをお願いします。先ほど少しお話したような基本課題についてですが、まず今回のリストの中には、日本語名での記述をしていますし、IFC等を含め、国際的な対応を行っていく必要があるのではないかと検討を行っています。
- 属性項目の入力値については、標準値等の明記がされていないものもあり、統一性を持つことも当然ながら必要と思っていますので、検討を行っている状況です。
- リストの追加等については、ユースケースの検討等によって必要な属性項目が追加されることが考えられますので、フィルターセットを複数設定できるような改訂や、ユースケースに基づいたフィルターセットを設定することによって、属性項目の追記を図っていく活動を行っています。
- 14ページをお願いします。こちらは、改訂の状況を少し抜粋したものです。これまで、左側にお示ししているような公開している部分に加えて、改訂により修正が必要なもの、どのような改訂を行ったかというものを、現在、追記する形で作業を進めている状況です。

- 15ページをお願いします。データベース化については、こちらにお示した要件の整理を行い、実際のデータベースを作成するに当たっての課題なども、現在、確認をしている状況です。今年度については、後ほどご説明しますが、標準属性項目リストをメンテナンスする際にも、データベース化は必須ではなかろうかという話が出ており、PoC等も含め、実現性まで検証ができればと思っていますので、サンプルデータベースの作成も視野に入れて活動を行っている状況です。
- 16ページをお願いします。今お話ししたメンテナンスのところですが、標準属性項目を改訂する際に、新しく属性項目の追加が必要になった場合に、属性にそれぞれ固有のIDを振る状況になっており、IDを自動発行することや、属性項目そのものが重複していないかをチェックすることも、メンテナンスに必要になりますので、そのような機能を確認すべく、データベースを検討する必要があると考えています。
- 同時に、データベース化の結果、設計や、関連する各ユーザーさんが、実際に、どのように標準属性項目リストの中から連携に必要な属性を抽出していくのかというフィルター機能を持たせることが必要と考えていますので、データベース化の主要な検討を行っています。
- 17ページをお願いします。ユースケースの検討です。
- 18ページをお願いします。昨年度は、積算のS2段階のユースケースを事例として公開しましたが、今年度については、S2段階からS4段階にレベルを深く掘り下げて、実際のユースケースの検証を行っている状況です。
- 部門間ユースケースについては、意匠・構造・設備という形で、小規模なモデルを基に、その連携手法について昨年度、検討を行いました。その検証を引き続き実施しています。
- それから施工については、昨年度は建具を行っていますが、今年度は、乾式間仕切りについてのユースケースの検討を行っています。
- 19ページをお願いします。ユースケースの深掘りについてですが、S4段階については、こちらにお示したように、昨年度作成したS2サンプルモデルと同じ建物のS4サンプルモデルを作成し、手法の提案そのものは、標準化タスクフォースでは行いませんが、一方で特定の手法を用いた場合の積算ユースケースの検討を行っている状況です。
- 今後、各社、ばらばらなモデリングが想定されますが、その状況でも積算ができるような要求事項を積算側からご提示した上で、モデリングをする設計者側に、負荷がかからないような形で、どのようなことができるか、積算連携に対しどれだけ連携の度合いを高められるか検証をしていきたいと考えています。
- 20ページをお願いします。部門間の連携については、昨年度同様に、小規模なモデルを用いて実際の連携を図っていましたが、部屋や空間などを用いて、構造で用いる荷重情報がどのように連携できるかを中心に、連携手法についての深掘りを実施しています。
- 21ページをお願いします。施工製作のユースケースについては、先ほど少しお話ししましたように、乾式の間仕切り等の連携について検討を進めています。
- 一方で、このモデリングにおいては、設計事務所やゼネコン設計部で、例えば壁符号の振り方について、仕様情報が符号の中に記述されるなど、各社で、ばらばらな表現になっていることがあり、共通化するのはかなり難しい状況といえます。これをどのような形でデジタル化するか、今回の検討の主眼に

なっていますので、連携手法を考えていきたいと思ひます。

- 22ページをお願いします。これらのユースケースを最終的に取りまとめた際に、実際に複数のユースケースを今回のプロジェクトで採用する場合に、どのような形で、どのような情報を、誰が入力して、いつそれが入力されているかというようなデータジャーニーを検討することにもつながるかと思ひっており、これらが、最終的にはMETという形で整理されるのではないかと思ひています。
- 今年度の活動の中では、METそのものをお示しすることは難しいと思ひますし、標準的なMETも基本的には存在しないと思ひますので、ユースケースを積み上げていくことにより、最終的に、METが出来上がるような形の取りまとめができるといいと思ひます。
- 23ページをお願いします。ここから、外部データとの連携に移ります。
- 24ページをお願いします。昨年度は各種外部データの確認をしており、こちらを公表しました。
- 25ページをお願いします。今年度は、外部データ連携のユースケースの1つとして、LCAを検討しています。最終的には、成果物イメージの中にありますように、LCAとBIMとの連携について報告書をまとめたいと考えています。加えて、実際にどのような形で外部データと連携をしていくのが望ましいかを検討しており、外部データ連携については、この連携手法の検討とユースケースの検討を行っている状況です。
- 26ページをお願いします。27ページをお願いします。今年度の活動成果物ですが、標準属性項目リストの概要書の改訂は、冒頭でご説明したように、「属性項目リストの使い方等が分かりづらい」というご意見もありましたので、補強していくことを考えています。
- それから属性項目リストそのものの改訂、それに付随する解説書などの改訂をしていこうと思ひています。また昨年度、概要書の中に付帯していたものですが、用語集そのものを、別冊として今回の改訂の中で作成したいと考えています。それから各成果報告書、活動報告書という形で、これらの最終成果物をご提示する形で考えています。
- 28ページをお願いします。現在、既に12月に入っていますので、年明け以降は報告書の作成をメインにするような形で、月内をめぐりに今年度の活動についてはまとめていく予定です。ご報告内容としては以上です。

### 志手部会長(芝浦工業大学教授)

- ありがとうございます。それでは、ただ今の報告について、ご質問・ご意見等はありませんか。属性情報の検討について、ユースケース等も含めて、検討およびその説明資料などの作成が粛々と進められています。ご説明ありがとうございました。

### (3) ガイドライン改定の検討状況について

資料3-1 「ガイドライン改定骨子について」

資料3-2 「ガイドライン第2版／第3版 目次構成(素案)の比較」

#### 志手部会長(芝浦工業大学教授)

- 次の議題に移りたいと思います。続いて議事次第(3)「ガイドライン改定の検討状況について」です。こちらについては、資料は3-1から3-2です。事務局より資料の説明をお願いします。

#### 野口(事務局/国土交通省建築指導課企画専門官)

- 事務局から、「ガイドライン改定の検討状況について」ということでご説明します。
- 1ページをお願いします。このガイドラインについては、前回の改定から約3年を経過し、最新の検討状況を反映しようということで改定議論をスタートしました。昨年までは改定の骨子を整理していただき、今年度はワーキングを設置して、その改定骨子に基づく具体的な改定方針について、今検討していただいています。今年度中の改定を目標に、現在、そのワーキングの中で、ガイドラインのアウトラインと改定の素案の議論を進めていただいている状況です。
- ワーキングについては、環境整備部会に所属している委員の方々に、委員またはオブザーバーという形で広くご参加いただいています。今、ワーキングの中で、現にアウトライン・改定素案について検討していますので、ある程度形になったタイミングで、このワーキングの委員を通じ、各団体にも改定の案についてご紹介して、その結果を反映したものを最終的には取りまとめたいと考えています。
- 改定のアウトラインについては、まさに今、ガイドライン改定のワーキングの中で検討を進めている最中で、まだ議論の途上のところも少しありますので、本日は、改定の全体像として、目次についてご紹介します。
- 2ページをお願いします。これは、改めてガイドライン改定の全体の方針で、前回の環境整備部会の中でもご紹介した内容です。大きく3つのポイントでということで、これは、ポイントの1つ目をまとめています。
- 一番大きな話としては、現行のガイドライン(第2版)の中で、前回の改定の際に引き続き検討の課題となった事項については、反映できるものについて検討を進め、反映しようということで、今、ワーキングの中で議論を進めていただいています。例えばBIMの詳細度に関すること、人材の定義に関すること、BIMのデータの権利や責任に関することなどについて検討をしています。
- 加えて、冒頭に議事の中でご紹介しましたが、BIMの将来像と工程表の中で、BIMの建築確認、データ標準化、維持管理運用段階におけるデジタル化の検討を進めていますので、その検討の進捗についても、各パートの中で、反映できるものについては反映していこうと思います。
- それから課題としては挙げていなかったものの、EIR/BEPに関すること。それから、BIMを用いたワークフローにおけるCDEに関することについては、より充実化しようということで進めています。
- 3ページをお願いします。2つ目は、全体の大きな編集方針に関わることですが、今、第2版の改定に当たってさまざまな内容が掲載されており、かなりボリュームも大きくなりました。加えて、「改めてこのBIMのガイドラインの位置付けについても検討すべきです」と、昨年度の環境整備部会でガイドライン

の編集を議論する中でご指摘いただきましたので、改めて、このガイドラインについては、国が示す標準的な内容について位置づけるということで、内容自体をコンパクト化しつつ、個々の具体的な例示などについてはガイドラインの中で参照しつつ、それぞれのガイドラインの作成も進んでいますので、そちらに委ねるという関係性で整理していくことをご報告しています。

- 4ページをお願いします。3つ目で、国際規格であるISOとの整合性に配慮するというので、必ずしもISOと同じものをわが国のワークフローに導入するというものではありませんが、現状のガイドラインの中で、国際的なBIMのワークフローの中で不足している部分を抽出し、より充実化するという観点で、特にこのCDEに関する記載の充実や、CDEも用いたBIMのデータを充実していこうということで議論を進めていただいています。
- 資料の3-2で、目次構成についてご紹介します。具体的なガイドラインの内容については、今、まさにアウトラインの素案を検討しているところなので、改めて団体委員を通じて、団体の皆さまにご紹介できればと思います。その上で、この目次構成については、先ほど申し上げたとおり、資料の見方としては、左側に現在の第2版の目次構成、右側に今回の改定素案としての目次構成を挙げています。
- 全体の編集方針としては、国として示すべき標準的な内容を、できるだけコンパクトに示していく観点から、現状の目次立ての中で、類似または記載が重複している項目立てを、改めて項目立てとして編成して、よりコンパクトで分かりやすい構成にしています。
- その上で、現状の記載の中で必要とされる内容については継続をするということで、この緑の部分が、構成を再編しつつも、基本的には引き続き従来の内容を踏襲して記載していきます。それからピンクの部分については、主にポイント第1でご説明した、残された課題やEIRに関して、今回はより充実した検討を行い、その成果を反映するパートとして構成しています。その内容については、基本的にはワークフローに付随する、その留意事項という形になっていますので、従来の目次立てを生かしつつ、留意事項という中で、個々のパーツについての具体的な内容を紹介していくという目次立てになっています。
- 少しご紹介しますと、青のところは、ワーキングの議論の中でも、従来のものも踏襲しつつ、より記載を充実させようということで書いている部分になっています。
- この1-2-2の効率的なBIM活用のスタンスということですが、従来どおり、もちろん、BIMのモデルが、設計から維持管理・運用段階まで一貫して活用されていくものの、業務自体を効率化していくことが本来の目的ですので、そこに沿った上で、データ自体が、それぞれのワークフローで必ずしも1つのモデルにこだわる必要がなく、しっかりとそれぞれに必要なデータをきちんと検証していくことについてもBIMを活用していくためには重要になる旨を、改めて記載することを想定しています。
- それから、建築BIMがもたらす社会的インパクトということで、具体的に、先ほどポイントの中で申し上げた社会実装の取組などが進んでいますので、BIMの建築確認をはじめ、そのような内容についてとりまとめていくことを現時点では想定しています。また、第3版の改定ポイントをまとめたパートも、1-3-3で用意しています。
- それから、2-1-2、業務区分ごとのポイントとその担い手ということで、今回、別のパートで特出して整理はするものの、ワークフローの担い手に関する議論をワーキングの中で充実して行っていただいています。その部分について、このパートの中でも、記載をより充実させます。

- それから2-2が、標準的なワークフローを記載しているパートです。今、さまざまなパターンのワークフローをご紹介している状況になっていますが、先ほど申し上げたように、詳細なパターンごとのワークフローについては、各団体とのガイドラインや、あるいは元々のガイドラインの中でも、別途そのようなことを紹介するものがありますので、この中でしっかりと基本的な事項を説明していく観点から、設計・施工分離型を例示して、ワークフローをもう少し詳細化してご紹介するようなパートに再編・整理をした上で、それぞれ、さまざまな想定されるパターンの特徴について、この中でご紹介することを予定しています。
- 3ポツは標準ワークフローの活用に当たっての留意事項・解説ということで、従来から、今回課題となっているものについての記載があるものもありましたが、より残された課題に関する議論も踏まえつつ、そのような各内容についての記載の充実化を図ります。それぞれの項目として、EIR/BEPに関すること、CDEに関すること。
- 2ページをお願いします。BIMの詳細度に関する例示と、それを使ったBIMのワークフロー、BIMの成果品に関することや、権利や責任区分に関する留意事項、またBIMの人材の定義に関することについて、先ほど紹介した標準的なワークフローに沿った形での留意事項の詳細について、ここでご紹介します。
- 4ポツは、現状のパターン別のワークフローで、それぞれの現状で言うと、さまざまな設計・施工分離、設計・施工一貫、維持管理で活用と、それぞれのワークフローに沿った詳細な内容が記載されているパートになりますが、こちらについては、別添資料に送りつつ、加えて、関係団体が作成しているガイドラインなどとの関係についても、併せてその中で整理をしていくことを予定しています。
- 最後にまとめで、ここに向けての展望を記載していくパートをご用意するというので、今、この目次立ても含め、その素案を作成していく中で分かっていくところもあろうかと思いますが、現状はこのような形で、ワーキングの中で議論いただいている状況です。
- 今後、実際に文書として形になってこないと思身が分かりにくい部分もあると思いますので、ワーキングの中で形になったタイミングで、団体の皆さまにもご意見を頂いて、進めていきたいと思っていますので、引き続き環境整備部会の皆さまには、ご協力をお願いできればと存じます。
- 説明は以上です。少し時間が早いですが、このパートについては以上です。

### 志手部会長(芝浦工業大学教授)

- ご説明をありがとうございました。ただ今の説明について、ご質問・ご意見等はありませんか。ガイドライン(第3版)への改定に向けて、さまざまな検討を行っています。検討の項目はだいぶ具体的になってきていると思いますが、ご意見等はありませんか。よろしいですか。
- それでは、これで、ただ今の議事については終了したいと思います。

## (4) その他

### ① 学識委員からの意見

#### 志手部会長(芝浦工業大学教授)

- それでは、本日の議事全体を通して、ご意見・ご質問等がありましたら、よろしくお願いします。  
それでは、まず学識の先生方にご意見等をお伺いしたいと思います。安田先生、よろしくお願いします。

#### 安田委員(東京工業大学名誉教授)

- 今日はどうもありがとうございました。大変丁寧なご説明で、4月からの図面審査がよいよ始まるための準備が、着々と進んでいることを実感しました。皆さんのご尽力に対して感謝します。
- 特に個別の意見はありませんが、個人的に非常に興味があるのは、当然、このBIMを使って円滑にプロジェクトが前に進むことが目的ですから、その目的達成のための、最後にご説明がありましたが、やはりEIR。要するに、施主からの要望が早い段階でフィックスしないと、いずれにせよ、結局、途中で大変更になります。あるいは、もう一つはコストコントロールです。ユースケースの積算の話がありましたが、今、いろいろなプロジェクトが、その2点についての難題を抱えていると実感しており、これは時代もあるのでしょうか、その2つについては、私はこれからも非常に注目していきたいと思っています。どうもありがとうございました。

#### 志手部会長(芝浦工業大学教授)

- ありがとうございます。
- 続いて、蟹澤先生、よろしくお願いします。

#### 蟹澤委員(芝浦工業大学教授)

- 蟹澤です。本日はありがとうございました。いよいよ4月からBIM図面申請、当面はビューワーということですが、準備が着々と進んでいることが非常に伝わりました。ありがとうございました。
- その上で、今日のご説明もありましたが、旧4号建築の猶予期間も、ちょうどBIMのスタートと一緒に終わります。旧4号ということで、要するに図書省略を図面がなくてもいいと解釈されることも実際は多かったのですが、このBIM申請ということで、何かそれがいい方向にいけばいいと思います。ただし、少しハードルが高いので、そのプロセスも含め、どのようになっていくのかは、国交省のサポートも必要かと思いながら聞いていました。
- もう一つは、全体を通して、安田先生もおっしゃいましたが、やはりBIM化を前提に、いつまでもテールローディングというか、設計の確定を先送りする日本のモデルから、やはり早めにしっかりともの決めをして、その上で、BIMの推進だけではなく、いろいろな意味で生産性の向上や合理化を図っていくことが、今後期待して、見守っていききたいことになると思いながら聞いていました。本日はありがとうございました。

### 志手部会長(芝浦工業大学教授)

- ありがとうございました。
- 続いて、小泉先生、よろしくお願いします。

### 小泉委員(東京都立大学大学院教授)

- 小泉です。ご発表、ご説明をありがとうございました。いよいよBIM図面審査に向けて、着々と準備が進んでいることが伝わってきました。
- ただ一方で、実際に図面審査となると、いろいろな人たち、いろいろな状況のものが出てくると思います。やはり人間が入力するものなので、小さいミスなどもあるでしょう。そのような時に、どのように取り扱うのかということも議論しておく、実際に実装された時もスムーズになるかと思いました。
- それから、これは先ほど申し上げようと思いましたが、最後にご説明いただいたガイドラインに、確認申請に関わることは触れられていないのでしょうか。恐らく数年後にはまた状況が変わるのでしょうか、ガイドラインも随時見直しをされるということであれば、やはりワークフローの中で、確認申請に関わることも触れられてもいいのかと思いました。私からは以上です。

### 志手部会長(芝浦工業大学教授)

- ありがとうございました。確認申請の部分をガイドラインに入れていくということですが、ただ今のコメントに対して、事務局から何かコメント等がありますか。

### 野口(事務局/国土交通省建築指導課企画専門官)

- ありがとうございます。先ほどご紹介したとおり、「建築BIMがもたらす社会的なインパクト」という目次の中で、社会実装に向けた動きについてご紹介するとともに、ワークフローの具体的な各パーツの中でも、確認については触れられる範囲で触れていく方針で検討を進めていますので、そこは、ある程度の形が見えたタイミングで、委員の皆さまにもお見せできるようにして、ご意見を頂ける形にさせていただければと思いますので、引き続きご助言のほど、お願いできればと存じます。

### 志手部会長(芝浦工業大学教授)

- ありがとうございました。

## ② 団体委員からの意見

### 志手部会長(芝浦工業大学教授)

- その他に、他の委員の方々、あるいは出席者の方、ウェビナーで出席されている方、何かコメントやご意見等はありませんか。時間はまだ結構余裕があると思いますが、いかがですか。
- 委員の方全員に回していくと、時間が大変なことになりそうですので、まず設計関係の団体で、岡本様、何かご意見、コメント等がありましたら、よろしくお願いします。

### 岡本委員(公益社団法人 日本建築家協会)

- 岡本です。これまで、皆さん、関係の方が大変努力されたということで、ここまで来たのは、本当に敬意を表したいと思います。これから、実際に、いわゆるBIM図面審査も含めて始まってきますが、どの程度きちんとできるかは、やはりやってみないと分からないところがあります。ロールプレーで幾つか出ていますが、それをどのぐらい広げていけるのかというところを、これからやっていかななくてはいけませんので、まずはこれからかと思っています。できるだけ頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

### 志手部会長(芝浦工業大学教授)

- よろしくお願いします。
- 続いて審査者・特定行政庁の立場から、香山様、何かコメント等がありましたら、よろしくお願いします。

### 香山委員(一般財団法人 日本建築センター)

- 香山です。図面審査も、いよいよ残り4カ月を切ったところでスタートということで、私どもとしても、先ほどから話題になっているロールプレーに職員を参加させていただいていると同時に、ICBAからご説明がありましたが、4月から新しいCDE環境ができるということで、このCDE環境をどう使っていくかについても、今、ICBAと鋭意、調整をさせていただいています。その中で、できること、できないこと、われわれとしてやりたいことの要望等も伝え、できるだけ使いやすい環境をつくっていきたいと思います。
- そして、4月に向けて、ロールプレーだけでは解決できない問題があろうかと思いますが、できるだけトラブルがない、円滑な施行に向けて、審査機関としても努力していこうと思っていますので、よろしくお願いします。

### 志手部会長(芝浦工業大学教授)

- よろしくお願いします。
- 続いて施工関係で、曾根様はいらっしゃいますか。コメントを頂ければと思いますが、いかがでしょうか。

### 曾根委員(一般社団法人 日本建設業連合会)

- 日建連の曾根です。資料のご説明をありがとうございました。質問というより感想になってしまいますが、BIMを使用していない設計者・技術者がまだ多いので、今回のタスクフォースの成果が、そのような方たちにも訴求できる形になればいいと感じました。
- 日建連においても、会員企業を中心として、このような成果を情報発信していきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いしたいと思います。以上です。

### 志手部会長(芝浦工業大学教授)

- ありがとうございました。
- それでは維持管理で、猪里様、よろしくお願いします。

### 猪里委員(公益社団法人 日本ファシリティマネジメント協会)

- 日本ファシリティマネジメント協会の猪里です。本日は、皆さま、ご発表・ご説明をありがとうございました。感想というか、志手先生はじめ、皆さんのご尽力により、建築生産段階のBIM活用が進み、その基盤が大変整備されてきていると感じます。
- 素晴らしいことだと思う一方で、後ろのほうのわれわれが担当している運用や維持管理段階でのBIMの活用が、やはりまだまだこれからだと思います。建築のライフサイクル全般で見ると、運用や維持管理は非常に長い期間ですので、JFMAとしては、その間のBIM活用について、もっと力を入れていかなければいけないと感じています。引き続き、皆さんにご指導いただきながら、その部分の活用を頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。以上です。

### 志手部会長(芝浦工業大学教授)

- ありがとうございました。
- 続いて日本CM協会の服部様、ご意見・コメント等がありましたら、よろしくお願いします。

### 服部委員(一般社団法人 日本コンストラクション・マネジメント協会)

日本CM協会の服部です。現在移動中で、音声途切れるかもしれません、ご了承ください。このたびは、多くの皆さまが積極的にBIM活用に向けた作業や検証を進めておられることに、心より感謝申し上げます。感想となりますが、私自身も発注者サイドで業務を行う立場として、今回の確認申請にBIMが活用されることは非常に意義深いと感じております。これを契機に、発注者側におけるBIM活用への意識が高まり、BIMを積極的に活用していこうという機運が一気に広がることを期待しています。ありがとうございました。

### 志手部会長(芝浦工業大学教授)

- 移動中のところ、どうもありがとうございました。
- それでは、先ほど安田先生からコストマネジメントが大変重要だという話がありましたが、日本建築積算協会の森谷様、何かコメント等がありましたら、よろしくお願いします。

### 森谷委員(公益社団法人 日本建築積算協会)

- 森谷です。標準化タスクフォースの中で、積算をユースケースにいただいていますので、皆さん、実態についても、いろいろとやって、知見を頂ければと思っています。この先も、われわれ積算協会としても、皆さまの円滑な作業の実施に向けてやっていきたいと思いますので、ぜひご協力のほど、よろしくお願いします。以上です。

### 志手部会長(芝浦工業大学教授)

- ありがとうございました。
- それでは構造設計の立場から、JSCAの伊藤様、おみえでしたらコメントいただければと思いますが、いらっしゃいますか。

### 伊藤委員(一般社団法人 日本建築構造技術者協会)

- JSCAの伊藤です。皆さんがおっしゃっていましたが、本当にようやくここまでたどり着いたなど、皆さんの努力がだいぶ前に進んだなという感想です。
- 4月以降、最初はデータ審査まで至らない段階でのBIM審査なので、実際にどの程度申請がされるかという辺りが少し不透明かと思いますが、前に進まない、議論も進まなければ中身も改善していかないとしますので、まずは一歩踏み出して、さらに皆さんがBIMを活用して、真の意味でのいろいろなDX化が進むことを期待しています。いい結果が報告されたと思います。今後ともよろしく願います。

### 志手部会長(芝浦工業大学教授)

- よろしく願います。
- 続いて設備の施工関係で、電設工業協会の三村様、おみえでしたらコメントを頂ければと思います。

### 三村委員(一般社団法人 日本電設工業協会)

- 電設協会の三村です。ご説明いただきありがとうございます。とても分かりやすい内容で、われわれ電設業も、まだまだ裾野が広がっていないところがあり、ガイドラインを含め、これからの課題や、やらなければいけないことははっきりしたということで、協会としても、各所属団体にBIMの展開をより深く浸透するように努力していきます。ご協力をよろしく願います。以上です。

### 志手部会長(芝浦工業大学教授)

- ありがとうございました。
- 続いて日空衛の古島様、よろしく願います。

### 古島委員(一般社団法人 日本空調衛生工事業協会)

- 日空衛の古島です。いろいろな関係で、環境面やハード面の整備が非常に具体的に進んでいることが、本日よく分かりました。日空衛としても、これらを操作したり運営したりする技術者の育成や資格などのソフトの部分も含めて、今後、増強できればということで取り組んでいきたいと考えていますので、引き続きご指導いただければと思います。以上です。

### 志手部会長(芝浦工業大学教授)

- ありがとうございます。
- それでは、コメントを私から示すのは最後で、buildingSMARTの山下様、コメント等がありましたら頂けるとありがたいですが、いかがでしょうか。

### 山下委員(一般社団法人 buildingSMART Japan)

- buildingSMARTの山下です。武藤さんや大越さんが説明されましたように、私どもは、どちらかという縁の下での力持ちで、BIMの普及の、特に確認申請という一つの一大イベントを支えます。一生懸命頑張っておりますので、皆さん、何かありましたら遠慮なく申しつけてください。よろしくお願いいたします。

### 志手部会長(芝浦工業大学教授)

- ありがとうございます。
- それでは、全員の皆さまにご発言いただくことはできませんでしたが、日本のBIMの推進に向けて大きな一歩になる年度になろうかと思っています。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。
- それでは、議事の進行につきましては、事務局にお返ししたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## 3. 閉会

---

### 野口(事務局/国土交通省建築指導課企画専門官)

- 本日はスムーズな進行にご協力いただき、ありがとうございました。本日の資料は国交省のホームページに公開していますので、ぜひご参考ください。以上をもちまして、第23回建築BIM環境整備部会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

以上